



▲ 障害飛越で個人優勝の沼尻と  
ゴールドスター号

馬 術



関東学生馬術競技大会  
が6月22日から25日まで

JRA馬事公苑で行われ、専大は障害飛越、馬場馬術で2位、総合馬術(調教・耐久・余力)では3位となり、3種目総合3位となった。

初日の障害飛越で沼尻孝夫(経営4・取手松陽高)が個人優勝を決めて快調な滑り出しを見せるが、馬場馬術でも2人が上位に残って希望をつな

# 沼尻 障害飛越で優勝

## 団体では総合3位に

関東学生馬術

いた。最終日の総合馬術は上位陣に大きなミスは見られず、しのぎを削り合う試合展開。結果は、わずかな差が勝敗を分けたが、最後まで勝負の行方が分からない、手に汗握る熱戦を繰り広げた。

上位校はほとんど方の差が無かった。そこから一歩抜け出し、秋の全日本学生で勝利を手にするためには、「主力である上級生の培ってきた経験をもとに、熟練さを、どこまで、戦で、成長させる。この経験と富沢健悟監督は言う。

玉野高)は「最後まで勝負できたということが重要な意味を持つ。自信と悔しさの両方が残ったが、この思いを秋にぶつきたい」と語った。接戦での勝負は選手を大きく成長させる。この経験を次に生かしてほしい。

西山慶太主将(商4・

未希・文2)

(文・写真とも 加藤